

第7回奈良市子ども条例検討委員会の概要

開催日時	平成24年12月21日（金）午前9時半から午前11時半
開催場所	奈良市役所中央棟5階キャンペラの間
議 題	1 子どもワークショップについて 2 インタビュー調査について 3 アンケート調査について 4 その他
出席者	出席委員5人・事務局14人
開催形態	公開（傍聴人0人）
担当課	子ども未来部子ども政策課
議事の内容	
<p>1 子どもワークショップについて</p> <p>事務局より子どもワークショップ報告書について説明し、意見を求めた。委員から、類似のワークショップはなく、常設型の子どもワークショップなどの子ども計画に子どもが参加する仕組みを条例で条文化していく必要があるという意見が出た。</p> <p>また、子どもを取り巻く環境についての議論があったので、子どもが発達する環境に関する点を盛り込んでいけばよいという意見が出た。</p> <p>他の自治体における子ども条例は、抽象的な文言が並んでいるので、出てきた具体的な意見をどう抽象化していくかが難しいという意見が出た。</p> <p>ワークショップの感想として、大人の我慢が必要な場面があり、それは逆に大人が子どもに我慢を強いてたこともあるということから、きちんとプロセスを経て、蓄積していかないと、大人と子どもの対等な対話の関係は作れないという意見が出た。</p> <p>来年度のワークショップについて、単に意見を聞くだけではなくて、子どもと一緒に条例を作っていくという感じで、続けていくことが大事という意見が出た。また、子どもから子どもに伝えて、リーダーを作っていくような仕組みを考えていくことが大事という意見が出た。</p>	
<p>2 インタビュー調査について</p> <p>事務局よりインタビュー調査報告書について説明し、意見を求めた。委員から、発達障がいについて、条例の文章に盛り込むのは難しいが、条例を意識し、何か改善されればよいという意見が出た。</p> <p>多様な子どもがいる中で、全ての子どもが生活できるような仕組みやケアが必要であるし、人材の育成も必要で、問題を抱えている子どもがいた場合にどうするかは政策課題であり、子どもらもそういう子どもがいることを知り、一緒にやることの面白さを知ることが大切という意見が出た。</p> <p>条例が具体的に条文化され、子どもを支える場合、どういう役割を周りが担</p>	

っていくかを考えたときに大きな価値観のぶつかり合いがあると思うが、事業などで展開して、意識を変えていくことが必要という意見が出た。

子どもの育ちを支えるうえで大切なこととして、学校と地域と家庭を意図的に結び付けていかなければならないという意見に対して、奈良市では中学校区毎に地域教育協議会を設置していて、そのコーディネーターが子どもと地域と学校を結び付けているので、一度、意見を聞いたほうがよいという意見が出た。また、学校であれば、先生の意見も聞きたいという意見が出た。学校が一番最初に参画の主体性を学ぶ場であり、受身的な学びだと発想も受身的になり、参画しなくなるという意見を受け、条例も、守られる、教えられる存在としての子どもか、あてにされる、一緒に変えていくという存在の子どもかで、条例全体のトーンに関わるので、活かしていきたいという意見が出た。

3 アンケート調査について

事務局よりアンケート調査について説明し、意見を求めた。

クロス調査をかけていくときに、これまでの調査がどのようなものがあるかを再度協議するという意見が出た。

当初3月に実施する予定であったシンポジウムを9月に延期するという説明に対して、委員から、1回では、市民や地域に理解されるわけではないので、何回も必要であり、どんなかたちであれ、1つの区切りとして、市民向けに発表することが重要という意見が出た。それに対して、事務局から再度検討すると回答した。

4 その他

第6回検討委員会議事録について説明し、承認された。